シンポジウム３　12月15日（日）12:40～14:10　第1会場

臨床実習および臨床実習前教育の現状と課題を考える

演題1：医師養成課程における臨床実習前教育と臨床実習前客観的臨床能力試験

宮坂　智充
東北医科薬科大学医学部　医学教育推進センター

医師養成課程では、各大学が策定する「カリキュラム」のうち全大学で共通して取り組むべき「コア」の部分を「モデル」として体系的に整理した「モデル・コア・カリキュラム」を踏まえた教育が行われている。モデル・コア・カリキュラムは医学生が習得すべき知識や技能について定めるだけでなく、臨床実習を開始する前に修得すべき技能を具有しているかを評価するための試験（臨床実習前客観的臨床能力試験）の出題基準や臨床実習指導者についても規定し、全国統一の基準で教育の充実を目指している。一方、臨床検査技師養成課程では「臨床現場での実践」の重要性が認識されるなか、（一社）日本臨床衛生検査技師会および（一社）日本臨床検査学教育協議会が中心となって、養成校学生に対する臨地実習前技能修得到達度評価の実施や臨地実習指導者の認定を進めている。本シンポジウムでは、医師養成課程におけるモデル・コア・カリキュラムと臨床実習前客観的臨床能力試験の現状を紹介したうえで臨床検査技師養成課程における教育の実際についてご講演を拝聴し、臨床検査技師養成における実践的な臨床実習の実現に向けた議論を深めていきたい。

演題2：当保健学科における臨床実習前教育と臨地実習前技能修得到達度評価の取り組みの現状

佐藤　光[1)]・青柳　哲史[2)]
1）東北大学大学院医学系研究科　感染病態学分野
2）東北大学大学院医学系研究科　感染病態学分野、総合感染症学分野

臨地実習開始前に技能・知識等が一定の基準に達しているかを客観的に評価する「客観的臨床能力試験（OSCE）」は、医学部をはじめ、歯学部･薬学部で義務付けられており、現在ではほかの医療職種の教育にも広がりを見せている。2021年の法改正に伴い、臨床検査技師教育を取り巻く環境は激変した。2022年度入学者からカリキュラムが改定され、必要総単位数の引き上げ、臨地実習における実施・見学行為の明確な指定、そして臨地実習前の知識・技術を確認するための技能修得到達度評価などが課せられることとなった。技能習得到達度評価は各校で行うものであり、評価内容については厚労省から例が示されているものの、統一的な方法は定められていない。単に技術・知識を評価するのでなく、学生が臨地実習に必要な技術・知識を備えることを30-45時間かけて、指導することが目的とされている。当保健学科では、日本臨床検査学教育協議会の実施要項に従い、2023年度から技能修得到達度評価を実施している。本講演では当保健学科における臨床実習前の教育と技能修得到達度評価の取り組みを紹介し、臨床からのご意見をいただきたいと考えている。

演題3：小規模施設における臨地実習の現状

桑原　喜久男
新潟県済生会三条病院　臨床検査科

臨床検査技師教育カリキュラム変更、2021年の臨地実習ガイドライン改定により臨地実習指導者を1名以上置く事が求められた。2022年に入学した学生は本要件において臨地実習が行われている。ガイドライン改定により、全国一律に単位数が決めらえた事、実習項目の明確化が行われ、受け入れ施設にとっては実習を進めやすくなった。必ず実施する項目、必ず見学させる項目、実際させる事が望ましい項目が明記されているが、学生にとっては少々ハードルの高い項目がある事は事実である。当院は小規模な施設で直接指導する技師が少なく、また30歳代を中心とした比較的若い構成となっており、検査内容を深化して指導できているか疑問も残るが、学生にとっては近未来の自身の姿を思い浮かべる事ができる状況にあると考える。ガイドラインに則り行った臨地実習の取り組みについて述べさせていただき、ガイドライン改定以前との違いや受け入れる施設の臨地実習に対する思いも示したい。